

障がい者権利条約は、豊かなまちづくりの羅針盤

第3回町民人権講座を開催

昨年年度、最後の町民人権講座（講演会）を開きました。

講師に障がい福祉サービス事業所「いちごの広場」所長の河原道弘さんを招き、「忘れないで障がい者権利条約！～あたりまえに働きえらべる暮らしを～」と題し、講演を行いました。

河原さんは、まず初めに、世界人権宣言や、昨年4月に制定された「障害者差別解消法」のできた背景・経緯を紹介。続いて、東京オリンピックが開催された1964年に第2回パラリンピックが開催され、初めて「パ



▲障がい者の権利を学び、よりよいまちに

ラリンピック」と呼ぶようになったことや、今のように障がい者スポーツが注目されなかった時代に、障がい者がパラリンピックで注目され就職できましたなどの秘話を披露しました。参加者は時代の移り変わりとともに、人々の障がい者観や障がい者を取り巻く環境が変化してきたことに驚いていました。

最後に、河原さんは、「豊かなまちづくりに、障がい者権利条約は羅針盤・物差しの役割を果たす」と、共生社会の必要性を訴え、講演を終了しました。

教育委員会がらのお知らせ

4月4日に教育委員会を開き、次の案件について報告・承認されました。

・一般報告として

▼平成29年度の児童生徒数、教育委員会事務局の人事異動、各小中学校の教職員について報告がありました。

・議事として

▼日野町スポーツ推進委員の委嘱について提案され承認されました。

▼日野町文化財保護審議会委員の委嘱について提案され承認されました。

▼日野町立学校主任等の任命について、各校からの具申どおり承認されました。

・学校自己評価について

▼各学校の平成28年度学校自己評価について報告がありました。

《次回の予定》

日時：5月2日（火）午後1時30分

場所：役場第1会議室

《総合教育会議の開催について》

平成29年第1回日野町総合教育会議を次のとおり開きます。

日時：5月2日（火）午後3時

場所：役場大会議室

※会議は公開しています。お気軽にお出かけください。

困ったら 1人で悩まず行政相談



行政や暮らしの困りごとなど、お気軽にご相談ください。

川上 博史さん（本郷）

行政相談委員は、国・県・町などの役所の仕事や手続きなどについての疑問や苦情を受け付け、その解決のための助言や関係行政機関に対する通知などの仕事を行っています。

今回、行政相談委員として、川上博史さん（本郷）が引き続き総務大臣から委嘱されました。

行政相談の日程は、「くらしのカレンダー」に掲載するほか、防災無線でお知らせします。皆さん、お気軽にご相談ください。

【問合せ先】総務省鳥取行政評価事務所
（電話0857・24・5542）

“地域の養蜂家の皆さんと
蜜源植物を植えました”



ミツバチの未来を守るため立ち上がれ！

日本固有種であり、今、その数が激減しているニホンミツバチ。農薬や除草剤の多用がその原因だとも言われている。日野高校アグリライフ系列では、この

のニホンミツバチを題材に、里山をとりまく環境について学習を行い、自分たちで調べたことを発表する授業を実施しました。

一週間後、この学びを活かして、地域の養蜂家の皆さんと一緒に、蜜源となる柑橘木の植樹を行いました。舞台となったのは日野高校前の河川敷に広がる休耕田。生徒たちは、地域の皆さんと協力して、畑に開けた穴にミカンの木を植えたあと木植を使って支柱をしつらえ、苗木をしつかりと支柱に固定する作業を行いました。

地域の皆さんは「やはり若いと力があるね！」「段取りがいいから、作業が早い」などと絶賛。作業が終わるとほっと一息、お土産の巣蜜（絞る前のハチミツ）をみんなで頂きました。地域の皆さんと力を合わせて作ったミカン畑、花が咲いて、ミツバチがたくさん集まってくるといいですね！

（日野高校魅力向上コーディネーター・片平誓子）

町内に地震計を設置しています。

現在、京都大学などの研究グループが、調査のため地震計を設置しています。この調査は、県内と、島根県・岡山県にまたがる広い範囲に、約千個の小型地震計を設置し、地震の際の揺れなどを調べ、地震発生のメカニズムなどを明らかにすることを目的としています。

町内でも、道路わきや山の斜面など約120カ所に地震計を設置しました。地震計は、説明の付いた箱の中に入っています。

もし見つけた場合は、動かしたり、振動を与えたりしないよう、皆様のご理解とご協力をお願いします。

地震計の設置期間は、平成29年度中の1年間で、調査終了後には回収します。もし、地震計の移動が必要な場合は、次までご連絡ください。【連絡先】日野ボランティアネットワーク（電話 72-2220）



このような地震計を設置しています

協力隊通信 vol. 13

肉田 隊員編⑩ “ミカンとニホンミツバチ”



地域おこし協力隊として活動する5人の隊員の日々の活動などを紹介します。今回は、内田麻美隊員（上菅）編です。

こんにちは、協力隊通信ではお久しぶりの内田です。昨年8月、日野町に来てから半年ちょっとたちました。夏と秋、そして大雪だった冬を過ごし、やっと少しは慣れてきたかなと思えるようになりました。

さて、話は変わりますが、私は日野町ニホンミツバチの会に入っています。今、ニホンミツバチは数が減っていて、その原因もはっきりと分かっていません。

人ができることは蜜源を増やし、ミツバチの住みよ



ミカンの木に負けないように自分も成長しなくちゃ！

い環境を作るということなので、3月下旬に蜜源になるよう、ミカンの苗木を植える作業を行いました。育つまで4～5年かかるそうなので、長い目でやっていかないとけません。ミカンが実るころにはミツバチが少しでも増え、少しでも豊かな自然環境ができればうれしいです。

同じように、自分もここで2年3年と活動し、ミカンが実るように自分も何かを実らせたいと思います。